

第29回福門建築会特別功賞賞（殊勲）

もりした おさむ
森下 修 (苗 1985)

経歴

1981 大阪府立三田丘高校 卒業
1981 早稲田大学建築学科 入学
1985 早稲田大学大学院 入学
1985 所属キャンパス等の設計に参加
1987 早稲田大学大学院 卒業
1987 竹中工務店 入社
2000 森下建築設計設立
2000 読者参加型建築石形シンポジウム参加
2000 早稲田大学にて講義を行う
2002 早稲田大学非常勤講師
2005 大阪芸術大学非常勤講師
2006 大阪大学非常勤講師
2006 関西大学非常勤講師

資格

一級建築士
関西大学非常勤講師
フナシリアーティマニャー

所属団体

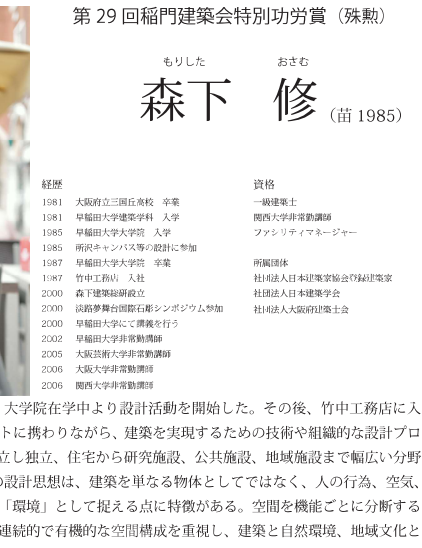
社団法人日本建築家協会 特別建築家
社団法人日本建築学会
社団法人大阪府建築士会



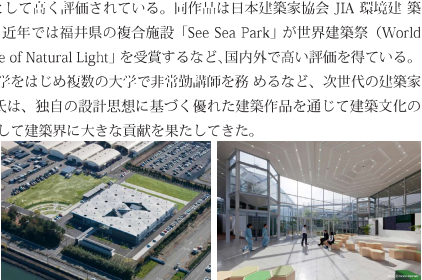
建築家森下修氏は、池原研究室で建築を学び、大学院在学中より設計活動を開始した。その後、竹中工務店に入社し、大規模建築や都市スケールのプロジェクトに携わりながら、建築を実現するための技術や組織的な設計プロセスを学んだ。2000年には森下建築総研を設立し独立、住宅から研究施設、公共施設、地域施設まで幅広い分野で独創的な建築活動を展開している。森下氏の設計思想は、建築を単なる物体としてではなく、人の行為、空気、光、熱など多様な要素が流れながら重なり合う「環境」として捉える点に特徴がある。空間を機能ごとに分断するのではなく、人や情報、空気の流れを生かした連続的で有機的な空間構成を重視し、建築と自然環境、地域文化との関係性を統合的に考える設計を実践してきた。代表作には研究施設「HEXAGON / Aron R&D Center」などがあり、環境性能と空間の連続性を融合した建築として高く評価されている。同作品は日本建築家協会 JIA 環境建築賞（一般建築部門最優秀賞）を受賞したほか、近年では福井県の複合施設「See Sea Park」が世界建築祭（World Architecture Festival）2023において「Best Use of Natural Light」を受賞するなど、国内外で高い評価を得ている。また教育活動にも積極的に取り組み、早稲田大学をはじめ複数の大学で非常勤講師を務めるなど、次世代の建築家育成にも寄与してきた。以上のように森下修氏は、独自の設計思想に基づき優れた建築作品を通じて建築文化の発展に寄与するとともに、教育や社会活動を通して建築界に大きな貢献を果たしてきた。

その功績は極めて顕著であり、今後も期待できることから特別功賞賞殊勲にふさわしい人物である。

推薦者：田名網雅人（苗 1980）



SEE SEA PARK おおい町チャレンジショップ | 2022.07



Thinkstay Mt. (六甲山) | 2023.09

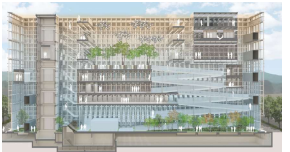
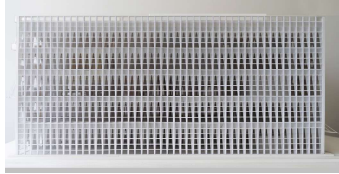
JST Production Complex 施設工場および研究

JST Product Complex 西倉吉

所在地：西倉吉
敷地面積：58820m²
JST 西倉吉は、研究・開発と生産を一体化し、効率だけでなく創造性も促進する産業施設として計画された。製造プロセスは製品の流れを最適化するスパイラル型の循環ラインで構成され、外輪を生産、内輪を研究開発、中央を機械開発のコアとして配置。製品の流れと人の流れを分離しつつ、人は緑地帯や中庭を通じて自由に循環し、偶発的な交流と発想を生む。プレバ構造、雨水再利用、ダブルスキン外壁などのパッシブ環境技術により、柔軟性と持続可能性を両立した創発的な工場複合施設である。

JST Product Complex 宇都宮

所在地：宇都宮
敷地面積：11127m²
もりのフロアが具現化した建物です。時間軸の中で恒久的に流れる創造の多様性が溶け合い交わる建築です。「Eternal Flow」という秩序が建築全体を覆い、構造体であり機能ルートでありながら、外光や暖気を調整するダブルスキンとして機能する、環境と機械に寄り添った柔軟でサステナブルなシステムです。同時に、連続するアーチのように空間を包み込み、そこで働く人々のモチベーションを高める意匠でもあります。居心地の良さや緊張感を併せ持つ、創造性豊かな場を宇宙宮に創出します。



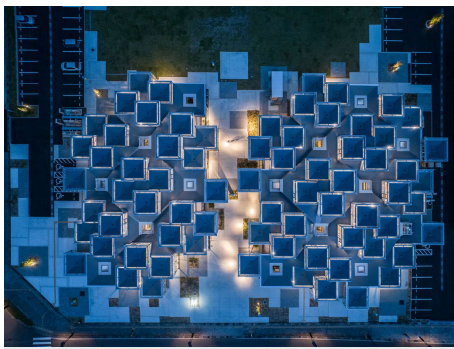
ETERNAL FLOW EXHIBITION

Eternal Flow | 2025.12-2026.01

外装には従来のガラスに代えて、内外二層のEIFEファサードを採用し、軽量性・柔軟性・耐久性を向上させています。

また、EIFEシート間の空間にはJSTのコネクターが配置されており、その構成は人間社会・テクノロジー・自然環境の相互連関を象徴しています。これは、未来世代のために地球を守る責任と、持続可能で柔軟な環境の重要性を訴えかけるメッセージでもあります。

このダイナミックな流れは単なる抽象概念ではなく、私たちの世界を形作る具体的な力です。建築は、人間の活動や情報、アイデア、物質、さらには自然現象が相互に関わり合うことで生まれるものであり、それらに織り込まれた関係性は、生命の複雑さと連続性を映し出す環境の形成へとつながります。それは、自然と現代的な介入との相互作用を可能にし、永続的で持続可能な流れを象徴するとともに、現在から未来の世代へと橋渡しを担います。



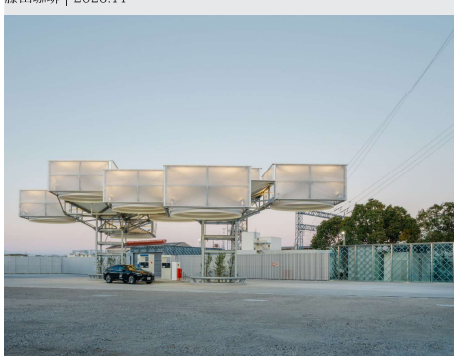
SEE SEA PARK おおい町チャレンジショップ | 2022.07



Thinkstay Mt. (六甲山) | 2023.09



藤田珈琲 | 2020.11



東亜合成水素ステーション徳島 | 2022.05

See おおい町
Sea チャレンジ
Park ショップ

建物用途：チャレンジショップ
所在地：おおい町、福井県
延べ床面積 2740.6m²
2019年の夏の終わりに、ヒグラシが奏でるカナカナという心地よい音のなか、おおい町を訪れた。敷地は整備された臨海立地であり、海から山へとつながる空間のフロアの連続性がある。人が集い、居心地のよい環境を創ることを考えた。集落に民衆が必然のように集まり地形と共に魅力的な空間態度を作り出すようなそんな印象的ではあるが飽きのこない人々の営みに馴染んだ場所ができたこと感じた。

超立方体に近い4.8m角、高さ2.4mのキューブがスチールリジダーをコアとしてユニットの単位を創る。ツリーと呼ぶ2.4m角平面の櫓が枝の間に延びるトラスによりユニットを支える。ユニットはアーチ状に連続し、下部空間の隅により、高低差を与えていくが、同時に背後に隠える山々の地形と呼応するような空間の質の変化を創ることを意識している。屋根は当初32mmの鉄板に遮熱塗料と断熱材を吹き付ける仕様としていたが、施工者の提案により超強力伸縮型遮熱防水を採用することになった。これがEIFE膜と一体化しモノコックな膜面が屋根全体を覆うことになる。

THINKSTAY Mt.
シンクステイ・マウンテン

延べ床面積：371m²
所在地：六甲山
建物用途：キャビン&ロッジ
兵庫県六甲山、標高760メートルの六甲ケーブル三条駅近くの小高い丘に、私たちは「Thinkstay Mt.」というユニークなサードスペースを開発しました。神戸と大阪のシンボルともいえるこのエリアには、森の中にひっそりと佇む一棟のアートエコーテジがあり、自然との調和と創造性の刺激を目指して設計されています。高床式で、断熱性に優れたポリカーボネート製の液板で構成されたコーテジは、自然の景観を損なうことなく木々の間に浮かんでいます。

六甲山にある、かつて使われていた数寄屋を改装したラウンジ&カフェにインスピレーションを得たこのプロジェクトは、未来と変化する環境を意識しながら、創造的な活動、自己啓蒙、そして自然との触れ合いのための空間を提供します。

分割された鉄骨フレームの両側にポリカーボネート製の液板を取り付けて二重構造にする事で、木々の間に浮かんでいるような自由な感覚を生み出しつつ、室内の温度環境を制御する。

藤田珈琲 / Fujita coffee

建物用途：カフェ、住宅
所在地：東大阪
延べ床面積：730m²
人を巻きつけ螺旋上に巻き込み昇華する、そんな建築を目指した。下町の構造が集積する東大阪市内、かつては貨物線であった高層路線の跡に位置する。人の営みが行き、生活が混濁と交わるそんな飽きかしの街中に珈琲煎焙機を中心とし、その周辺へのフロアが巻き上がるプランを創り上げた。建物は透明化され渦巻くスロープや生産のコアが視覚化し、機能や人々のフロアが周辺に意味を発生する。一度この渦巻きを見たものを建物内に誘引する。

機能や人のフロアと同様に環境のフロアということも強く意識している。ガラスを透過し進入した太陽光線はスロープ部の床と気流を熱し、上昇気流を作り出す。涼しい外気が地表に作られコアの地窓から侵入し、建物内の吹き抜けを勢いよく上昇し、換気窓とコア上部の可動窓から排出される。常に、建物内と外気の間での循環がおこる仕掛けを作っている。

建築というより、混沌とした、あらゆる事象や意味、ひとびとの思いや行為からなる多様性が渦巻き、巻き込むコアが街の中に舞い降りた。

東亜合成 水素ステーション

Hydrogen station

建物用途：水素ステーション
所在地：徳島市
延べ床面積：471m²

雲のように宙に浮く気候の集合体を定着させました。気候は空気を抱え、温暖化により濃く変化していく地球環境の緩衝材として下部の環境を中和します。そして、それは儚い自然を大切にしたいいけないという意識の視覚化でもあります。ツリーとユニットと呼ぶ構造システムにより雲は形成されますが、それは宙に浮くと同時にどこまでも連続する雲塊を形成し、多様な空間を作り出すシステムとして作られます。

水素ステーションでは街を照らすランプシェードが付加され、街の灯として行燈のごとく光を放ち、そして自然を意識した緑・グリーンと空・ブルーに発色し時間が移ります。この雲塊はどこにでも形を変え発展していきます。また違った形でサステナビリティを表現します。変容する多様性を表す雲によって自然と人として未来をつなぎます。